

やはり、**近松門左衛門**は**鯖江**で生まれていた!?



パワースポット + 恋花 (KOIBANA)

近松ゆかりの**恋愛**パワースポットをめぐり近松パワーをもらおう!!

「近松の里たちまち」をぐるっとまわって、近松生誕の謎に迫ろう!!

近松のパワースポットを背景に自撮り写真を撮り、SNSに投稿。

全12か所の内異なる7か所での投稿URLをメールに記載し応募してください。

SNSはtwitter, instagram, facebookのいずれかで

ハッシュタグ「#chikamatsukoibana」を添付。

もれなく「**近松門左衛門パワー享受証明書**」を差し上げます。

12か所のうち7か所での自撮り写真のSNS投稿で、「近松門左衛門パワー享受証明書」がもらえるよ。
更に毎年10月に開催される「たちまち近松まつり」に当日来られる方に豪華賞品が当たる大抽選会に参加できる抽選券をプレゼントします。

随時応募できます。メールで SC-CC-Tachimachi@city.sabae.fukui.jp



「近松の里」恋花♥見ごろ時期

3月下旬	カタクリ	陸上自衛隊鯖江駐屯地裏山	6月～9月	キョウチクトウ	大谷公園(実のなる公園)
4月上旬	サクラ	陸上自衛隊鯖江駐屯地裏山、浅水川堤防 西溜池(春慶寺西側)、吉江七曲り通り	7月～8月	ハス	西溜池(春慶寺西側) 蓮池(榎お清水)
4月下旬	フタバアオイ	葵畑(春慶寺西側・立待公民館東側)	11月～12月	イチョウ	西光寺
6月～7月	ハナショウブ	中溜池(榎お清水)、西溜池(春慶寺西側)	12月～3月	ツバキ	春慶寺
6月～7月	サツキ	近松門左衛門記念碑庭園(立待公民館)	通年	各種果樹	大谷公園(実のなる公園)

近松が生まれ育ったまち 福井県鯖江市

問合せ先 鯖江市立待公民館 Tel. 0778-51-3376 福井県鯖江市杉本町702-2

map ナンバー

1

近松門左衛門記念碑庭園

(近松の里めぐり情報館)

ちかまつもんざえもんきねんひていえん



東洋のシェイクスピアと称される近松門左衛門は、鯖江市が誇る劇作家。近松が生まれ育った「立待」をめぐる旅は、ここ杉本町の立待公民館敷地内にある近松門左衛門記念碑庭園から始まります。庭園は、浄瑠璃に欠くことのできない三味線の形をし、初夏になるとサツキの花で彩られます。正面奥に近松の辞世文を記した碑があり、父の吉江藩士・杉森信義と近松が越前を離れるまでの解説が記されています。庭園手前には、福井県出身の作家・水上勉氏揮毫による「近松門左衛門先生由縁之地」と記された石碑も建てられています。



見どころ



近松の里めぐり情報館

立待公民館内にある「近松の里めぐり情報館」では、ただ一人の吉江藩主「松平昌親公」や、元禄三大文豪のひとり「近松門左衛門」と鯖江との関わりについて紹介しています。文楽の人形や衣装等の展示をはじめ、鯖江市在住の創作粘土人形作家かとうかずお氏による近松と鯖江に関するジオラマ風人形や、映像、展示等があり、子どもから大人まで楽しみながら、近松の幼少時代を振り返ることができます。



七曲りで遊ぶ近松の人形



サツキ(杜鵑花) 花言葉: 協力を得られる、節約、節制

恋話
KOI BANA

中国の伝説。蜀の地に天から下った「望帝」という王がいました。その地へ治水に詳しい「べつ霊」がやって来ます。べつ霊の留守中、その妻と通じてしまった望帝は自分を恥じ山中に隠棲。苦悩の末、死んで杜鵑(ホトトギス)に生まれ変わります。昼も夜も激しく鳴き続け吐いた血が地上に落ち、そこから赤い花が咲き、杜鵑花と呼ばれたとされています。

✳メッセージ「何事も度を越さないよう、控えめに」



map ナンバー

2

西光寺表門

さいこうじおもてもん



全国でも珍しく殿号で呼ばれる寺院「石田殿西光寺」は、本願寺7世・存如が旧石田村に開いた道場を起源とし文禄4年(1595)、現在地に再建されました。表門は、吉江藩主だった松平昌親公が福井藩主を継ぐこととなり、廃藩となった吉江藩邸(館)の門が西光寺に移築されたと伝えられています。西光寺第8世・良助の室おとくは、昌親公の叔母であったことから、西光寺には昌親公の書状が数多く残されています。その書状を調査した結果、「近松鯖江生誕説」が発表されました。



? なんだろう

「じゃぼんこう」の由来
江戸時代、西光寺に迎えられた第10世・寂周は、生来病弱だったため、乳母「お通」が同行。献身的に世話をします。やがて、親鸞の再来とされるほど人々の崇敬を集めた寂周でしたが、徳望が高まるほど健康が気がかりなお通。ついには自分の命を寂周に捧げて欲しいと池に身を沈めます。その年の報恩講は雷雨となり、池から龍(蛇)となったお通が舞い上がったという伝説から「報恩講」が「蛇恩講」、「じゃぼんこう」と言われるようになりました。



近松との縁



大イチョウ

西光寺の境内にある推定樹齢400年の大イチョウは、立待の歴史を見守ってきました。秋になると黄金色に輝く木を見上げ、銀杏拾いを楽しんだ幼い近松が思い浮かびます。



ここに
スタンプを
おしね!
←この近松の里めぐり
物語BOXに
スタンプが
入っています。



ケイトウ「韓藍」(からあい) 花言葉: 色あせぬ恋、博愛、おしやれ

恋話 KOI BANA

「秋さらば 写もせむとわが蒔きし 韓藍の花を 誰か採みけむ」(与謝蕪村)
秋に染めようと思って蒔いた韓藍の花が、誰かに摘まれてしまった。韓藍の花は「思い人」を意味しています。

✿メッセージ「時機を見極め、後悔するまえに告白を」



map ナンバー 3 糺野お清水 ただすのおしょうず



老杉が生い茂り、清水の湧き出る様子が京都の糺野に似ていることからこの地を「糺」と呼ぶようになりました。糺は鯖江台地の北西に位置し、大地と平地の間から湧くお清水は、神事に使われる名水として古来より大切に扱われてきました。また、野菜や農機具を洗う場所が区別され村人の生活にも欠かせない水でもありました。2019年、鯖江市文化財に指定されました。立待村志には、糺に「榎清水」があったことが記されています。



? なんだろう



お清水を守る白不動明王
糺野お清水に祀られているのは、右手に剣を持ち、左手に縄を持つ白不動明王。あらゆる「魔」を滅ぼし、幸福を与える仏様は、昔も今も糺野お清水の水源を静かに見守り続けます。



近松との縁



水路脇に隠れるように存在する糺野お清水
浅水川から西光寺前を流れる水路脇に、今は一つになってしまった糺野お清水があります。近松の頃は、数カ所のお清水が水量も豊かにこんこんと湧き出していたそうです。



ここに
スタンプを
おしえてね!
←この
近松の里めぐりBOXに
スタンプが
入っています。



水際に涼し気に咲く
かわいい花。



パンジー(すみれ) 花言葉:物思い、私を思ってください、私はあなたを思う、純愛

恋話
KOI BANA

ヨーロッパでは古くから、愛する人に「天使に愛された花」のいい伝えをもつパンジーの花を贈ります。天使に愛された花が奇跡を起こしてくれそうです。

✿メッセージ「素直な気持ちを、花に託してみては」



map ナンバー

4

石田の渡し場跡

いしだのわたしばあと



江戸時代から明治頃まで、水量が豊富な日野川では舟を利用した「河川交通」が盛んでした。米やさまざまな物産が舟積みされ三国湊まで運ばれました。古い文献によると、この石田にも舟渡し場があったとされ、日野川に交差する「浜街道（越前海岸から吉江に至る街道）」の渡し場として利用されたことが記されています。長さ18m・幅2mほどの渡し舟が一艘あり、石田橋50m下流の大きな柳が舟着き場になっていたようです。明治40年代、道路が整備され木製の橋が架かると石田の渡し場も廃止されました。



ひとやすみ



渡し場跡で往時を偲ぶ
現在、石田の渡し場跡がある日野川の河川敷には、青い芝生が植えられ整備が進んでいます。渡し舟が行き来し、旅人の足となっていた見晴らしのいい渡し場跡を眺め、往時を偲びましょう。



近松との縁



近松と幸若舞を繋いだ石田の渡し

近松作品に大きな影響を与えたとされている「幸若舞」は、越前町朝日地区を発祥の地とし、能や歌舞伎の原型と言われています。近松は、この「幸若舞」を見るため石田の渡しを利用したのでしょうか。現在の石田橋の欄干は、当時をイメージした渡し舟がモチーフになっています。



ここに
スタンプを
おしとね!

←この
近松の里めぐりBOXに
スタンプが
入っています。



子どもの頬を思い出す
クローバーの花冠。



クローバー(シロツメクサ)

花言葉: 約束、私を思い出してください

恋話
KOI BANA

アイヌの青年が恋人に逢いにいくためにのった舟が沈みました。恋人は彼の亡骸を体に結び、沼に身を投げました。翌朝、その周りにはクローバーが咲き乱れたそうです。

✳️メッセージ「約束をおろそかにすると、気持ちはずれ違います」



map ナンバー

5

吉江七曲り通り

よしえななまがりどおり



正保2年(1645年)から29年間、松平昌親公を藩主とする吉江藩がありました。七曲りは吉江藩の城下町の名残りで、町人町の一つ新町から藩主の住む陣屋までの道のりを、七曲りの名の通り何度も屈曲させ大回りさせるという城下町特有の道路構造をしています。当時は、入口には木戸、境に高札場があったと言われていました。現在は当時の佇まいを見る事は出来ませんが、変わらない地割りや道路から吉江藩当時の様子を伺い知ることが出来ます。



ひとやすみ



古い町並みと桜の木

吉江藩2万5千石の城下町の面影が残る、七曲り通り。一年を通して趣がありますが、春には桜の花で彩られ、美しい風情を醸します。



近松との縁



近松が生まれ育った城下町生まれてから10年余りをこの城下町で暮らした近松。この界隈に足を踏み入れると、幻想的な雰囲気の文化的景観と古民家のすばらしさを堪能できます。当時のカギ型の通りが現存し、町屋、商家などが往時を思い起こさせてくれます。



ここに
スタンプを
おしてね!

←この
近松の里めぐりBOXに
スタンプが
入っています。



行き交う人々の足をとめる
満開の大桜。



サクラ
恋話
KOI BANA

花言葉: 純潔、優れた美人

「あしひきの 山桜花 一目だに 君とし見れば 我れ恋ひめやも」/大伴家持
山に咲く桜の花をあなたと一緒に眺められたなら、こんな風に花が恋しいとは思わないでしょう…病の床から恋人を思い詠んだ歌です。

✳メッセージ「心が通じていても、言葉で伝えることも大事です」



map ナンバー

6

福正寺 ふくしょうじ



吉江藩関係の史跡が数多く残される吉江町周辺。こちらの福正寺もそのひとつで、創建は文治2年(1186)。元は天台宗の寺院でしたが長享2年(1488)に浄土真宗に改宗。戦国時代の戦火を被りながらも寺坊が守られ、松平昌親公が吉江藩邸を建築する際、土地を交換し現在地に寺域を定めました。この時、松平昌親公より多くの材木を寄進されています。長い歴史と人々の祈りに培われた不思議な力が感じられます。



ここに
スタンプを
おしてね!
←この
近松の里めぐりBOXに
スタンプが
入っています。



ピンクと白の千日紅
まるい花がゆらゆら。



見どころ



本堂正面軒下に 不思議な霊獣

こちらの木鼻に彫刻されているのは「獺」。霊獣 獺は、悪夢を食べてくれたり、悪夢を良い夢に替えてくれたりするそうです。



近松との縁



近松が遊んだ 歴史ある古いお寺

吉江藩士となった父が吉江に移り住み、そして生まれた近松門左衛門。このお寺の境内で遊ぶ近松を思い浮かべることができます。



スズラン

恋話

KOI BANA

花言葉: 幸福、繊細、幸福が戻ってくる、純潔

春の女神オスタラが、この花の守護神。パリの風習では5月1日にこの花を贈ると幸福が訪れるという、恋人に捧げる花です。

✳メッセージ「終わることは、はじまること。一歩踏み出しましょう」



map ナンバー

7

西番天満神社

にしぼんてんまんじんじゃ



ご祭神は、「学問の神様」として知られる菅原道真公。公の第3子である乙千代丸がこの地に住み、公の像を彫ったとされています。その後、落雷により御神像は焼失し、作り直されました。菅原道真公を祭神とする西番天満神社は、近松の父が仕えた吉江藩主・松平昌親公の祈願所でした。立待の里の総鎮守の社でもあり、村人の信仰を集めてきました。後年60歳を越えた近松は、菅原道真の大宰府への配流を題材にした『天神記』という傑作浄瑠璃を書き上げます。



見どころ



乙千代丸神社

乙千代丸は、菅原道真公の第三子。父菅原道真が太宰府へ配流になったとき、京都を追われ、家臣とともに立待地区の杉本の地に辿り着きました。乙千代丸は、神像を刻み、父の道真として朝夕拝しました。その像を収めた天満宮の横に寄り添うように、乙千代丸を祀る神社が建てられています。



近松との縁



国性爺合戦の絵馬

近松の代表作のひとつ「国性爺合戦」は時代物の中でももっとも有名な作品。その絵馬が奉納されています。このあたりで一番大きな絵馬として知られています。鯖江市文化財に指定されています。



ここに
スタンプを
おしてね！
←この近松の里めぐり
物語BOXに
スタンプが
入っています。



早春の境内に、
気高い梅の香りが漂います。



ウメ 恋話 KOI BANA

花言葉：高潔な心。潔白、澄んだ心、忠義

「春なればうべも咲きたる 梅の花 君を思ふと 夜寐(よい)も寝なくに/壹岐守板氏安麻呂 梅は「君」のこと。恋する人を思うと夜も寝られない…眠れない夜の恋心を詠んでいます。

✳️メッセージ「強がらずに、会いたい気持ちを素直に表現してみては」



吉江藩が成立した正保2年(1645)、吉江藩主・松平昌親公は陣屋や町並みを整備。従来の町に新しく整備した町をあわせて「十一口」、これを縦に並べて「吉江」とされ、立待郷吉江町が生まれました。昌親は、この頃から政治家としての手腕をふるい、土地を開墾し新しい農地を開拓したり、鍛冶屋や木綿の織物職人の育成など、商工業に力を注ぎます。結果、吉江は丹生郡の政治経済の中心として隆盛を極め、「小江戸」と呼ばれるほどでした。延宝2年、兄の福井藩主・光通が死去し昌親が福井藩主となるまで、わずか30年足らずで吉江藩は廃藩になります。



? なんだろう



松平昌親公

瑞源寺蔵

正保2年(1645)、結城秀康の子で第3代福井藩主・松平忠昌が死去。その後を子の松平光通が継ぐ。その時、松平光通は、弟の松平昌親公に2万5千石を分与するが、越前国内各所に分散していたため、まず本拠地の選定を行わねばならなかった。慶安1年(1648)、松平昌親公は陣所を吉江に設置することを許可され、吉江藩が成立しました。



近松との縁

近松の父が仕えた吉江藩

立待郷吉江の町が生まれた正保2年、昌親公はまだ6歳でした。その時、養育係となった付き人の中に近松の父である杉森信義の名があります。最近の調査により近松が生まれる前に信義は吉江に移住していた可能性が高くなりました。



ここに
スタンプを
おしてね!
←この近松の里めぐり
物語BOXに
スタンプが
入っています。



石碑の傍5に、
ナadeshikoの花を見つけました。



ナadeshiko

花言葉: 純愛、思慕

恋話
KOI BANA

「ひさかたの 雨は降りしく なでしこが いや初花に 恋しき我が背」/大伴家持
雨が降り続いても、咲きたてのなでしこのように恋しく思われるあなた…募る恋心を詠んでいます。

✿メッセージ「毎日が楽しくなるような、何かに恋してませんか」



「東洋のシェイクスピア」と称される近松を学んで諸芸上達祈願

map ナンバー

9

近松門左衛門坐像

ちかまつもんざえもんざそう

(近松情報案内所)



鯖江市には、歴史・伝統・文化を感じるすばらしい地域の宝があります。その中でも全国に誇れるブランド力の高い宝として、江戸時代の文豪（浄瑠璃・歌舞伎作者）近松門左衛門の存在があります。生まれてから10年あまりの多感な少年時代を吉江で過ごした近松。その土壌は、越前鯖江の豊かな自然と人情、風情に育まれたと言えるでしょう。浅水川沿いの通りに面した見晴らしのよい場所に、作品を執筆しているかの如く筆を走らせる近松の坐像がどっしりと鎮座しています。

近松情報案内所内にスタンプがあります。

ここにスタンプをおしてね!



うつむき加減な百合の花がひっそりと咲いていました。



ひとやすみ



近松情報案内所

近松関連の情報や案内チラシがたっぷり。「近松の里 たちまちめぐり」の情報拠点となる案内所です。

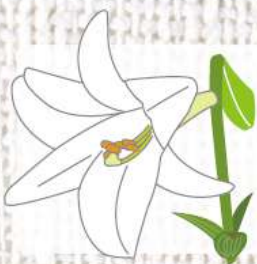


見どころ



近松の里大看板

近松の代表作「曾根崎心中」のお初・徳兵衛の人形が描かれています。



ユリ
恋話
KOI BANA

花言葉：純潔、威厳、無垢

「さ百合花 ゆりも逢はむと 下延(は)ふる 心しなくは 今日も経めやも/大伴家持 百合は「あとで」と重なる言葉。後で逢えると思わないと、今を過ごせない気持ちを表します。

✳️メッセージ「深呼吸。どちらも大事なら自分のペースを大切に」

map ナンバー **10**

大谷公園

(実のなる公園)

おおたにこうえん



大谷公園には、親鸞上人の「三度栗縁起」という伝説に由来する3本の栗の木があります。越後に向かう親鸞が、民家で説法をしました。しかし、誰も話を信じなかったため、焼き栗を庭に植え「この実が年に3度実を結んだならば、私の説法に嘘はない」と言い立ち去ります。後に、栗は1年に3度実を成し、「三度栗」と呼ばれました。3本の栗の木は、その子木を移植したもので、「実がなる」が「実る」となり、心願成就のご利益があるとされています。



ここに
スタンプを
おしてね!
←この
近松の里めぐりBOXに
スタンプが
入っています。



ひとやすみ



実のなる公園

グミ、栗、柿、イチジク等、実のなる樹木を植樹して、四季を通し「育て、収穫し、食する」といった体験学習型公園を目指しています。起伏に富む地形を活かした楽しい空間で、子供たちも自由に遊べます。



近松との縁



近松が愛した 立待の風景を眺める

左右の竹林を仰ぎ見ながら石段を登りつめると、見晴らしの良いのどかな立待の町の景色が広がります。うぐいすを始め、いろいろな野鳥の声を楽しみながら、近松が愛した城下町に思いを馳せましょう。



リンドウ

恋話

KOI BANA

花言葉:正義、悲しんでいる時のあなたが好き、さびしい愛情

平安時代、おしゃれな花とされ、女御たちの衣裳の模様に使われました。リンドウが1本で咲く姿から「悲しんでいるあなたを愛する」というやさしい花言葉ができました。

✳メッセージ「落ち込んだときは、ひとりの時間も必要です」



map ナンバー

11

春慶寺 しゅんけいじ



寺伝によると、春慶寺の前身は泰澄大師が白山修行に立つ際、立待にあった草庵に名づけた「心敬寺」にあるとされます。戦国時代には、心敬寺を中心に一千坊がひしめいていましたが、織田信長の越前侵攻の焼き討ちに遭い現在の寺院だけが残りました。正保2年(1645)吉江藩成立後、藩主・松平昌親公の篤い信仰のもと、寺号を天台宗「春日山 春慶寺」へと改め、同藩の祈願所に定められました。泰澄大師伝記には、大師が三十八社より越知山へ通う途中、一草庵であった当寺において香や華を供えて遥拝したとあります。寺の西側には、徳川家家紋の原型になった「二葉葵」が植えられています。



ここに
スタンプを
おしとね!
←この
近松の里めぐりBOXに
スタンプが
入っています。



見どころ



本堂脇に鯖江市指定文化財 推定樹齢400年余の御神木(大杉)の、まっすぐ伸びたその姿に「子どもがすくすくとまっすぐ育ちますように」と祈願する人も少なくありません。その傍らに、室町時代から近代にかけて造立された117基の石造物が遺存されています。これほど多く遺存しているのは、市内でも稀であり貴重だそうです。



近松との縁



幻想的な椿に何を思う…
境内に群生する椿。散りゆく花が辺りを深紅に染めるその様は幻想的で美しい。一家で吉江を離れる一時期、この寺の一角を借り住んでいたといわれる近松は、どんな思いでこの花を愛でたのでしょうか。



ツバキ
恋話
KOI BANA

花言葉: 完全な愛、完璧な魅力、理想の恋

「あしひきの八峯の椿つつらに見とも飽かめや 植ゑてける君」/大伴家持
見飽きるのでしょうか、この椿を植えたあなたを…椿は古事記にも登場する、神聖な樹木です。

✿メッセージ「鏡の中の自分、見つめてみて」



map ナンバー **12** 榎お清水 えのきおしょうず



春慶寺の竹林の中の小径を下って行くと、「榎お清水」のある山麓に出ます。ここは、千古の昔より湧き出ており、健康長寿の水として親しまれ、村人や旅人はお不動様に手を合わせ、お清水で喉を潤したといわれています。また近松が産ぶ湯を使ったとの言い伝えも地元に残っています。吉江藩主・松平昌親公は「榎お清水」を笏谷石で3つに仕切り、水飲み場と洗濯場を整備して村人の憩いの場とし、さらに吉江の城下町に水を引き入れるため木樋を敷設して上水道を整備しました。池の中心は三味線のバチの形をしています。



ひとやすみ



お不動様が見守るお清水
近松の時代から、涸れることなく今なお水を湛えています。カルシウムやマグネシウムなどのミネラル分が豊富で、適度の炭酸ガスを含んでいるまろやかで清涼感のある水は、平成22年「ふくいのおいしい水」に認定されました。市文化財にも指定されています。



近松との縁



近松少年が親しんだ水辺
お清水付近は「池泉広場」として整備されています。その泉の底から時折、お清水が湧き出る様は、見ただけで心落ち着かせてくれます。また、近くには蓮池や中溜池があり、近松少年が親しんだ水辺の自然環境を再現しています。近松作品には、蓮の花が多く出てきます。この辺りで遊んだ当時を思い出して作品を描いたのでしょうか。



ここに
スタンプを
おしね!
←この近松の里めぐり
物語BOXに
スタンプが
入っています。



蓮や水辺に咲く花々を
眺め楽しむことができます。



ハス
恋話
KOI BANA

花言葉：遠ざかった恋、雄弁、神聖

中国の伝説。夏の深夜、月の仙女は下界の川面を鏡に化粧をしていた。その美しさに見惚れていた川の主の心に揺さぶられ、愛の象徴とされるかんざしをうっかり落としてしまう。川の主は急いで水面に浮上するが、川面には蓮の花が一面に咲き乱れ、持っていたかんざしも蓮の花びらに変わっていた。川の主は簪を返すことができず、恋は実らなかった。

✿メッセージ「結果を求めすぎないで、まずは冷静に」

江戸時代を代表する文豪

ちかまつ もん ざ え もん
近松 門左衛門 (1653~1724)

人形浄瑠璃や歌舞伎のすぐれた作品を数多く残した近松門左衛門は鯖江で生まれ、多感な少年時代、人間形成の大切な時間を過ごしています。義理人情に悩む日本人の人間らしい姿を描き出す近松文学の土壌は、鯖江の豊かな自然と人情、風情に育まれたと言えるでしょう。まさに鯖江は近松門左衛門の原点になったまちなのです。「東洋のシェイクスピア」と呼ばれるほどに、人間の悲しさや愚かさ、やさしさを描いたその作品は360年を経た現在も愛され続けています。



そね ざきしんじゅう
曾根崎心中



めいど ひきやく
冥途の飛脚



おんなごころしあぶらのじごく
女殺油地獄

近松門左衛門と「近松の里 たちまち」

近松門左衛門(本名:杉森信盛)が生まれ育った、「近松の里 たちまち」。古い面影を残す城下町には、かつて栄えた活気ある土地の記憶があります。由緒ある神社には、日々の喧騒を忘れさせる神聖な空気が流れています。豊かな自然や草花には、心身をやさしく癒してくれる力があります。この地には正保二年(1645年)から29年間、徳川家康のひ孫にあたる松平昌親公を藩主とする吉江藩がありました。近松の父、杉森信義は当時福井藩士として仕えていましたが、藩主昌親公のお付きの人に任命され吉江の地に移ってきました。そして、この地で信盛(近松門左衛門)が誕生しました。今も吉江藩があった「近松の里 たちまち」には風情を残す吉江七曲り通りや春慶寺、西光寺、福正寺、榎お清水、蓮池など近松ゆかりのパワースポットが整備され、スタンプラリーも実施されています。現在は当時の佇まいを見ることはできませんが、変わらない地割りや道路の幅、形状から吉江藩の様子を伺い知ることができます。そんな「近松の里 たちまち」を訪れてみませんか。



吉江七曲り通り



春慶寺



福正寺



西光寺表門(吉江藩表門を移築)

近松の里 たちまち スタンプラリー map



**近松の里めぐり
物語BOX**

近松門左衛門の
代表的な作品が
紙芝居風に
ご覧いただけます。

map ナンバー
1 2 7 8 12
※スタンプが入っています

無料 レンタサイクル
立待公民館
map ナンバー **1**
連絡先: TEL.0778-51-3376

こちろもプキパワー情報

「苦を抜き、楽を与える」名号岩

● **名号岩** (みょうごういわ)

天神山麓の大岩石には、天保13年(1842)に刻まれた「南無阿弥陀仏」の名号が深く刻まれています。名号には抜き与楽の働きがあるとされ、通行する人々に唱えさせるものだと言われています。



伊野姫パワーで待ち人来る

● **越智神社** (おちじんじや)

泰澄大師のその母「伊野姫」が祭神と伝えられている立待小学校の前の小さな社。古く泰澄大師が子供の頃に母親が帰りを立って待っていたという伝説から「立待」の名称が生まれたとされています。

